

神奈川県作業療法士会ニュース149号 目次

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1 巻頭言 | 10 地域リハビリテーション部より |
| 2 第13回神奈川県作業療法学会プログラム企画運営委員会からの報告 | 12 理事会報告（3月17日分） |
| 4 こんな人に会ってきた | 13 各部からのお知らせ |
| 6 アクティビティ探検隊 | 14 学術部のお知らせ・求人広告 |
| 7 ひよこ通信 | 15 講習会案内 |
| 8 OTのためのIT講座 | 16 青年海外協力隊体験記 |

巻頭言

忘れえぬ想い、そして我々は復興に向けて立ちあがる

北里大学病院 神保 武則

この度の東日本大震災により、多くの尊い命を亡くした。そして、いまだ数え切れない被災者が、つらい思いを強いられている。心より哀悼の意を表しお見舞い申し上げます。そして、早急な復興が実現できるようにお祈り申し上げます。

私自身、この東日本大震災が起きた3月11日は、一生忘れられぬ日となるであろう。勤務先のテレビで生々しい映像が流れる。アナウンサーが叫ぶように「東北地方、三陸沖を震源地とする大きな地震が…石油コンビナートが炎上…大津波警報…緊急地震速報…避難して下さい…」と、声を荒げる。10mを超える津波が町並みを一瞬で変えてしまう自然の驚異。刻々と破壊を続ける津波。続く大きな余震。我々の住む日本でとんでもないことが起きている、と誰もが思った瞬間だ。そして、二次災害が我々に襲い掛かる。

第13回神奈川県作業療法学会を1か月後に控えていた矢先の出来事だ。今回予定されていたワークショップ講演者である東北大学病院の村木孝行先生から「行けないかも…」というメールが届く。JOCVパネリストの阪本さんはすでに現地入りしており、救援に携わっていると連絡が入る。お二人とも「学会には極力参加する方向です」と答えてくれた。

学会中止となった経緯は、前回の県士会ニュースで取り上げられた。まだ余震が続く中、計画停電などの予期せぬ事態の混乱もあり、中止せざるを得ない状況であった。延期ではなく中止となった。学会会場として予定していた北里大学相模原キャンパスにおいても、岩手県牡鹿半島にある北里大学海洋学部が被災したため、その対応に全エネルギーを向けている時期でもあり、その中での決断となった。

今回の学会プログラム企画運営委員や広報委員には「学会中止」の連絡をした。1年以上もこの学会のために互いにmotivation高く、汗を流し、笑ってきたメンバーだ。状況の把握は早かった。みな口々に「止むを得ないこと。残念です」と、「でも、もう一度この最高のメンバーでやってみたいですね」と。私としては、言葉にならないほど嬉しい気持ちだった。学会という大きなテーマの実現に向け、皆の向かう方向が一つになる

と、想像以上の素晴らしいものが生まれる。今回は素晴らしいメンバーに恵まれた。そして、我々やこの学会をサポートして下さった多くの協力者もいた。本当にありがとうございました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

歴史というのはその時の想いを刻み、後の発展につなげ、残していくもの。我々メンバーはたとえ実現しなくても、一人ひとりがしっかりとその想いを刻んだ。幻となった第13回神奈川県作業療法学会。皆さんの心の中にも、「MOTTOつながる心と手」という学会テーマや、熱く素晴らしいOTが集まり企画してきたことなどを、神奈川県作業療法学会の歴史の1ページとし残して頂けたらとても嬉しいです。

そして、我々は新たな歴史を刻むべく熱いエネルギーを今、被災地に向けている。学会企画という立場から、今は被災地の復旧と被災者の生活の復活化へと企画内容は変わった。私は思う。今こそ最高のOTスキルを発揮し、どうしたら、被災者たちの支えとなるのか、企画と運営をしていこうではないか。「さあ、立ち上がろう！人は誰でもつらい時はみんな一緒だから」



誇り高さ無限の力をもつ
最高の仲間です

THIS IS IT

第13回 神奈川県作業療法学会 プログラム企画運営委員 書記

佐藤 隼（さがみりハビリテーション病院）

仕事を終え、自宅の駐車場に着いたその時、携帯電話に神保委員長からの着信が…

「一緒におもしろいものを作りましょう！」

ここから、私の“MOTTO”が始まりました。

まぼろしとなった第13回神奈川県作業療法学会でしたが、ここに至るまでには数多くのアイデアと笑いが生まれてきました。ここではプログラム企画運営委員会の歴史を、11回の会議録と420個のメールから振り返ってみたいと思います。

【平成22年3月20日 “僕らは出会った”】

場所は関内。神奈川県作業療法士会事務局に初めて足を踏み入れる。緊張。

今回の委員編成は神保委員長の『人望』で県内各地から集まり、ほとんどが初対面同士。しかしながら、打ち解けるまでに時間はかからず、自己紹介を終えればすぐに熱いトークが繰り広げられた。

4年後のWFOTin横浜を見据えていること、浅井学会長より「人と生活をよくする作業療法」をテーマに企画すること、市民参加型の学会にしていこうと、など期待に溢れていた。

【平成22年4月23日 “つながりを求めて”】

会議の主題はメインテーマ。誰が見ても理解できるフレーズというものが条件であった。「Hello」「楽」「ワッハッハッ」「Hand to Hand」「リハビリが人生をおもしろくする」…

この学会で僕らが伝えたいこと、それは各領域のOT同士はもちろん、何よりも人と人とがOTを通じてつながり合いたいという思いを込め、「リハビリでMOTTOつながる心と手」というメインテーマがここに誕生した。

【平成22年5月28日 “想像から創造へ”】

この頃から広報委員も会議に同席し、より学会のイメージを具体化していく作業となっていた。

「今までにない新しい学会を作りたい！」という

神保委員長の熱い思いを合言葉に、「1つのプロジェクトに100アイデアは必要。」という名言が残るほど様々なプログラム案が挙げられた。書記としては大変だったが、前へ前へとポジティブな姿勢のこの委員会は任務を忘れさせるほど楽しかった。

【平成22年6月25日 “コミュニティの輪”】

市民の方にOTを知ってもらいたい。市民の方とつながりたい。市民の方は何を求めているのか。

それを考えた結果、特別講演は「認知症」をテーマに企画していくことになった。講師の選出については、相模原市内でも大変人気のある高橋恵先生で満場一致だった。

【平成22年7月23日 “OTの可能性”】

ワークショップの内容について、より臨床現場の課題に目を向け、現場のOTがつながり合える環境づくりをしていく方向性となった。そこで、「地域リハ」や「がん」、「教育」、「災害とOT」といったトピックについて触れ、同時にOTの可能性が無限大であることに喜びを感じ合った。

【平成22年8月27日 “地域に生きる”】

学会ポスターも完成し、広報委員による広報活動も活発化してきた。同時に特別講演やワークショップの内容も徐々に決定し、プログラムが形となってきた。

幅広い経験年数のOTや一般市民の方へのメッセージ性を目的に、「人と生活をよくする作業療法」をテーマにして地域を様々な形で支えている先生方によるシンポジウムを企画していくことになった。

【平成22年10月22日 “鼓動”】

各ワークショップのテーマと講師が決定し、ついに学会プログラム、会場配置図が完成した。講師の先生方にも抄録の作成を依頼しはじめた。

この頃、ホームページへのアクセス数が1000を越え、周囲からの期待がひしひしと伝わってきた。

【平成22年11月19日 “コミュニケーション”】

第13回学会の特徴は市民参加型の学会であること。そのため、学会会場の1フロアを一般参加者向けのブースとして使用し、市民とOTが触れ合う場を企画した。思いがこもりすぎて会議は3時間にも及んだ。

【平成22年12月18日 “身近な存在”】

前回会議に引き続き、一般参加者向けブースについての具体案を検討した。

OTの躍動感や創作力を感じつつ、市民の方がOTへの関心や交流を深めることができるような空間を創り出すことを目的に、予防リハ教室や創作活動教室、OT関連道具の紹介、患者による体験スピーチが企画された。また、休憩室を設置し、そこでは県内OTの笑顔を集めたムービークリップ『つながる笑顔』を放映する予定。

【平成23年1月29日 “いざ現地へ”】

年を越え、平成23年。ついに学会が近づいてきた。この日は学会会場となる北里大学にて会議を行った。会場内を巡り、今まで作り上げてきたものが空間とリンクしていく。完璧だ！

会議では学会誌が形となって委員に配布され、各委員の当日の役割や、タイムスケジュールの確認をした。

関連団体や相模原市内の施設、一般市民の方に広告が配布され始め、関連雑誌・広報誌への広告掲載も開始された。もうまもなく本番です。

【平成23年2月25日 “記録より記憶”】

神保委員長から『第13回神奈川県作業療法学会プログラム企画運営マニュアル』が委員に配布され、進行の最終チェック、レイアウトや必要物品の確認を行った。

プログラム内容についても、もっとおもしろくなるのではないか、もっと居心地が良くなるのではないかと、最後の最後まで細部にわたって提案・修正を図った。

【平成23年3月19日 “永久的中止”】

3月11日、東北地方太平洋沖地震発生。それを

受け、県士会と学会長の協議の結果、第13回神奈川県作業療法学会は中止となったことが発表された。

予定されていた会議も全て中止となり、毎月当たり前のように顔を合わせていた仲間たちと会えなくなってしまうのではないかと寂しさを感じていた。

【平成23年4月16日 “ありがとう”】

プログラム企画運営委員として最後の集会を横浜で開催。すごく懐かしく心地よい気がした。

出会いから1年。僕らはOTを通して固い「絆」で結ばれた。そして、これからもこのチームは存続し、新たな境地を共に踏み出していくことを固く誓い合った。

【平成23年4月17日 “継承”】

晴れ渡る青い空。温かい香りを届ける桜の木。構内はとても静かだった。

北里大学正門には合計11名の一般市民の方が来場され、中止を強く惜しまれていた。手に持つ広告の「認知症」「予防リハ」「創作活動」という文字には赤い色鉛筆でしるしがされていた…

「人と生活をよくする作業療法」それは人と人がつながり合い共感することから始まる。まさにこの学会スタイルこそがその形だったのではないのでしょうか。

多くの期待を頂いていた第13回神奈川県作業療法学会は開催されずして伝説となった。あの故マイケル・ジャクソン氏のロンドン公演のように…

～追伸～

東北地方太平洋沖地震において甚大な被害に見舞われました多くの皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

また、被災地での援助やお仕事にご尽力いただいている皆様に深く感謝申し上げます。



記念ロゴマーク
by M.Iwano

こんな人 に 会ってきた



今回は「ここへ行ってきた」の番外編です。「こんな人にも会ってきた」と題し、片麻痺ゴルファーの角谷利宗さんをご紹介します。

角谷さんは片麻痺になられてから12年。ゴルフの他、登山にも挑戦され、これまでに7回も富士山登頂されているバイタリティーの持ち主です。定年退職された現在、障害があっても「ゴルフをやりたい!」と思っている人のためにご自身の経験を活かしたいとNPO法人ジャパン・ハンディキャップゴルフ協会にも所属されています。今なお新しいことに挑戦し続ける原動力について伺いました。

「片麻痺ゴルフ」との出会い

私は1999年51歳で脳出血を発症し、左片麻痺となりました。約4ヶ月間の七沢リハビリテーション病院でのリハビリ後、副腎皮質腫瘍の摘出術を受け、2000年に職場復帰しました。今の自分があるのは、七沢リハ病院で出会った無類のゴルフ好きと山登り好きの2人の同室患者のおかげです。2人ともそれぞれ退院したら絶対ゴルフやるぞ! 山登るぞ! と言っていました。正直自分は「こんな体になってしまっただけじゃないかな」と思っていました。当時リハビリのゴールとして、「歩けるようになりたい」「職場復帰したい」と思っていました。そのゴールが達成された後は自然と「ゴルフ」や「山登り」へと目が向きました。

退院後に同室者の言葉を思い出して、何度かゴルフの打ちっぱなしへ行きましたが、思うように球が飛んでくれません。「やっぱり無理なんだ…」と諦めていた時に、再び同室者と会い、彼から片麻痺ならではの打ち方やクラブの選び方を教わりました。すると思っていた以上に飛距離が伸び、その後2人で練習場に通うようになって、2001年夏に初めてコースに出て廻りました。独りだったら今日まで続かなかったと思います。

片麻痺ゴルフとは

文字通り「片手でするゴルフ」です。テニスでいうところのフォアハンドかバックハンドかによって、右利きか左利きかのクラブを選びます。私の場合は右利きクラブでのフォアハンド打ち。最初は軽い女性用のクラブを使いました。自分の体にフィッ



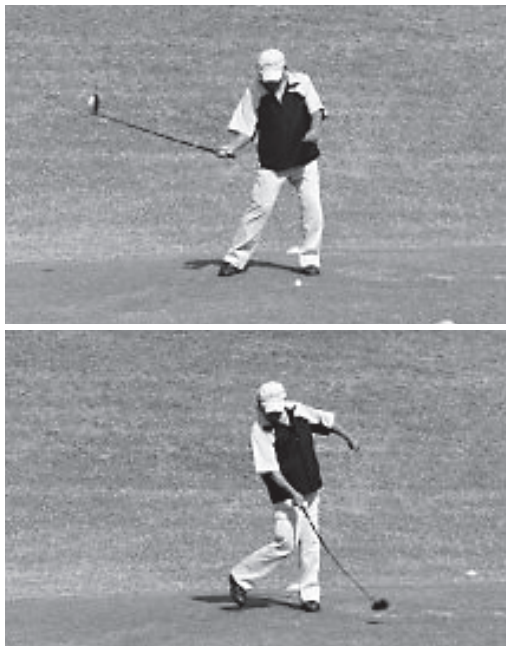
角谷利宗さん

トするクラブを見つけるのが大変なのですが、私の場合は中古モノを含め、市場に多く出回っているもので、使いやすいものを見つけることができました。また私は短下肢装具を使っていますが、靴底が減りやすいのでまめに手入れが必要です。

打ちっぱなしのゴルフ練習場は障害があっても使えますが、コースの場合は、ゴルフ場側の理解が必要になります。やはり一般客より廻るのが遅いですし、カートグリーン内にまで入れられるのか等の確認が必要です。以前に視覚障害者のプレーヤーが盲導犬とラウンドしようとした所、拒否されたケースがあったようです。理由は「他のお客さまで、犬が苦手な方もいらっしゃる」ということでした。お互いの理解が必要ですね。

ゴルフ大会への参加

2001年夏、ショートコースに出たのを皮切りに、その年の11月には「ザ・チャレンジド」という障害者のためのゴルフトーナメントに参加しました。昨年7月にはカナダの大会へも出場しています。そして11月に参加した第16回全国身体障害者ゴルフ



角谷利宗さんのスイング

大会（ザ・チャレンジド）では、初めてスコアが100を切り、両手打ちの片麻痺プレーヤーにも勝つことが出来ました。12月は沖縄で、夢のみずうみ村主催の「片麻痺ゴルフコンペ」に参加し、一部運営のお手伝いもしました。このコンペが他の大会と違うところは、「ゴルフ初挑戦者も参加できる」という点です。1日目は初心者向けにゴルフの練習。翌日はコースに出てプレー。18ホール廻らなくても、「ホール宣言」という独自のルールを作り、各自で目標設定してもらいます。今回は琉球リハビリテーション学院の生徒さんやゴルフ場の好意もあって、ゆっくりとプレーができ、とてもよい大会となりました。やはり、ゴルフ場の理解やサポート体制の厚さが成功の重要なキーポイントになることを痛感しました。今後数回は沖縄で開催予定ですが、このような大会が全国に広がってゆくといいですね。

登山について

登山好きの病室の仲間に誘われて低い山から登り始め、2001年には富士山初登頂しました。高尾山や茅ヶ岳などにも登っています。富士登山で、体調も山の天候も申し分なかったのですが、途中十分に体を休めなかったことで、高山病に罹り下山した経験があります。以降は山小屋で一泊し、自分にとってベストな登り方で山と向かい合うようにしています。一回の登山で私の短下肢装具はボロボロになるくらい痛んでしまいます。

今後のゴルフとの向き合い方

私の体力や障害度は2002年ごろと殆ど変わっていません。ゴルフと山登りそして車の運転は自分にとって、体力や気力のバロメーターとなっています。できる限り長く続けられるよう、無理はせずに、今の体でできることを、できる範囲でやっています。片麻痺ですから、身体能力的にできないことが多いのです。障害者になったということは、健康な人に比べて、再発や転倒等によって障害がより重度となり、「動けなくなる」確率が高いです。できるだけ、そうはなりたくないと思っています。

自分はたまたまゴルフととても相性が良かったのだと思います。ゴルフの面白さは、障害をおった体や能力と向き合い、どこまでプレーできるのか自分自身で見極められる所です。「あの時は…」と健康だった頃と比較しているようでは、面白くないですから。

リハビリの専門職へ求めること

私はNPO法人ジャパン・ハンディキャップゴルフ協会で理事を務め、ゴルフをやってみたいと思う障害のある方と一緒に、練習できる機会をつくっています。皆さんにもこうした活動があることを知ってもらいたいです。また興味があれば参加してもらい、専門職の方から体の使い方のコツなど教えていただきたいですね。

挑戦し続けているその原動力について

「面白いから!!」です。長く続けるコツは、今の自分の身体について知ることですかね。



利用者さんの願いや夢を実現可能なものするためにはどうしたらよいのか？やる気をいかに引き出せるのか？これらは地域生活を支える作業療法士としての常に考えることであり、腕の見せ所です。利用者さんにまず一步を踏み出してもらうことができれば、歩き始めたことで変わり行くその視界の中で、新たに湧き出た自らの好奇心を満たすべく、「ゆめ」へとチャレンジし続けることができるのではないのでしょうか。冷静にご自身の身体を見つめ、分析し、見極める角谷さんの目線。そして諦めない心と溢れんばかりの好奇心が、はにかんだ笑顔から感じとれました。（文責：菊地）

角谷さんのHP：

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sumioyaji/>

NPO 法人ジャパン・ハンディキャップゴルフ協会 HP：

http://sports.geocities.jp/challenge_kantou_golf/

わしらは

アクティビティー探検隊

湘南中央病院の園芸作業

季節は春。春といえば園芸ですね。今回のアクティビティー探検隊は、筆者の務める湘南中央病院の園芸活動をご紹介します。と思っています。

当院のリハビリ室の目の前にある庭園は当初、雑草が生い茂り荒れた土地でした。そこを患者さんやリハスタッフと一緒に少しずつ耕して土作りを進めていきました。完成した庭園は、縦が約50m、横が約35mで、あまり大きくはありませんが、野菜は約30種類、ハーブや花は約20種類が育つようになりました。患者さんにさせていただく作業は、水をあげたり雑草を抜いたり、虫や痛んだ葉を見つけたり、植物の状態を確認してもらい追肥したり、と色々あります。大切にしていることはこれらの作業の中でそれぞれの患者さんに必要な動作を引き出すことです。

当院の周辺は農業用地が多いので、農家の出身であったり、農業を生業とされていた患者さんもあり、園芸活動に対する反応はとても良好です。目を輝かせながら夢中になって作業を行っています。作業ができなくても庭園を一緒に歩いたり車椅子で散歩したりすることが目的で園芸活動に参加される方もいます。

去年は庭園を車いすで移動できるように、道をレンガで整備しました。この道も患者さんと一緒に作り上げました。高次脳機能障害があり、記憶障害が強かった方が、一つ一つレンガを敷き詰めていく作業を迷うことなく行うことができ、前向きに退院できるきっかけとなりました。ちなみにこのレンガの道は当院の提案表彰制度で表彰されました。

また車いす上でも作業ができるように、100円ショップで揃えた材料でアーチを作り、空中栽培も始めました。上からぶら下がるかぼちゃやメロンなどには、患者さんが注意を向けやすく、一緒に成長していく過程を楽しむことができました。

今回は当院の園芸活動をご紹介しますが、園芸はとても魅力的なアクティビティーで、日々の治療のアクセントになると思います。魅力的な園芸作業を展開されている病院や施設がありましたらぜひご紹介下さい。

この連載では、さまざまなアクティビティーを皆さんと共有して、神奈川県作業療法を盛り上げていきたいと考えています。取材へのご協力お願いいたします。(文責：矢野)



庭園にできた作物



庭園のアーチ



庭園のレンガ道



学生といっしょに作業される利用者さま



成長に感謝

3月下旬、夜に曇混じりの雨が降る日もあり、なかなか桜の蕾すら見られない今日この頃。私は非常勤で仕事をしている為、お休みの日は近所にある長女の保育園に遊びに行くこともあります。最近夕食に決まって保育園の出来事を話してくれる長女、いったい友達とどんな風に関わりをもっているんだろうかと興味もありました。2歳3歳の頃は保育園に遊び行っても私から離れなかったのですが、今では「ねえねえ、かけっこしようよ。早く来て」と半ば無理矢理？に友達を呼び、「じゃあ、あやちゃんこっち（右）走るから、ななちゃんはこっち（左）!!いい?わかった?」と念を押している姿は自分を見ているような…。そうなんですよ、話す口調、特に怒り方は私そっくりなんです（^^）。最近では2歳半の次女も怒ると、「もう!知らないからね!」→正に私の真似?と笑ってしまいます。ほんと子供の姿を見ていると反省すべきことが多々見つかります(>_<)。そして乳児時代にはみられなかった友達との関係等、集団生活の中で学んだことに感心してしまいます。長女も4月から年長さんです。これからは教えていく立場に変わっていくんだな、と保育園生活があっという間に過ぎていることが嬉しいような少し寂しいような。そして私は職場復帰をして一年が経ちました。一年前は朝の7時半には自宅を出て、帰宅後は夕食・入浴・就寝とホッとするのは布団の中（^^）p。あの頃は子供を早く寝かせてあげることが、その日の目標でもあったかもしれません。そしてこの一年で最も大変だったのは、復帰後に書類事が時間内に終わらない毎日。家に帰ると『明日効率よく行うには…』と考える日々。それにに加え、代わる代わる子供達が熱を出していました。私が休む事で職場の同僚に大きな負担がかかってしまい、自問自答しながら寝付く為、仕事の夢を見ることも度々ありました（^^）。子育てと仕事を両立する場合、『やってみないとわからない』ことが多く、心構えはできていても実際事が起きてからの心境はその時にしないとわかりません。そしてどんなに疲れていても、子供を迎えにいくと満面の笑みで飛びついてきてくれます。子供の笑顔で何だかホッとして、

『さ〜て!もうひと頑張りしないと』（^o^）/と元気になる、明日も頑張ろう!!と思わせてくれる子供達に日々感謝です。 （文責：海出）



♪再開の年♪

皆さんお久しぶりです。諸事情により、約一年間広報活動を休んでいた大宮です。実はおとしの冬に体調を崩し、仕事も2ヶ月ほどお休みしました。大きな病気ではありませんでしたが、自宅で寝たきり状態を余儀なくされたことは、私にとってとても大きな出来事でした。何もできないことの苛立ちや周りに申し訳なく思う気持ち、喪失感、不安感を抱えながらも、周囲の人に対しては笑顔で振舞ってしまう…。そんな状況の中で私が得たものは、私を取り巻く人達の愛でした。家族や親戚・友達・仲間からたくさんの手を差し伸べてもらい、つくづく私はなんて幸せ者だと思いました。また、経験することはそれ自体が宝になります。本当の気持ちは同じ経験をした人にしかわからないものという意味で、辛い経験も人生には役に立つでしょう。特に相手の痛みを考えることはOTの仕事に大切なこと。辛い中でも人は前に進まなくてはなりません。なぜなら、人が生きている世界には時があり、時は自動的に進み、先には未来があるからです。一見自分が立ち止まったり後退しているかのように見えても、実際には時が進んでいます。以前、「この世は修行の場であの世は修行を終えたものが帰る場所」と聞いたことがあります。私も子供も両親もみんなこの世に修行にきていると考えれば、どんなに辛い試練でもそれはあの世に帰るために人間として成長するために必要な課題であり、その課題を受けることで本来のマイホームであるあの世に帰ることができるのかもしれない。5歳になった息子にも喜怒哀楽プラス苦辛etc、いろんな経験をして成長していてもらいたいと願っています。息子は私が体調を崩したあと、更に優しくしてくれ、お手伝いも頑張ってくれるし、家族の笑顔のもとです。体調を崩したことがきっかけで保育園のママとも仲良くなりました。不思議ですね〜。再びひよこ通信を担当することに対して悩みましたが、終わる時はきちんとした形で終わらせたいという思いがあり、広報部の方々のご好意に支えられて戻ることができました。これからも、まだまだ修行中の私ですが、よろしく願います。ママもOTも頑張りまっす!! （文責：大宮）





OTのためのIT講座

被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

第7回 こんなときこそインターネットを活用しよう！



講師
石川 敢也さん



松本 地震、大変でしたね～。まずは地震の犠牲となられた方へお悔やみを申し上げ、被災された方や負傷された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。そして、災害復興に尽力されている関係者の方々の活動を心より応援しています。いやあ、石川さんも無事で何よりです。



石川 松本さんも、相変わらず元気そうでホッとしました。



松本 地震の時はどうしてました？横浜にいました？



石川 はい。新横浜にいて10階で仕事をしていました。低層ともいえない、かといって最新の免震技術を備えた超高層でもないの、話しを聞くと近所の友人よりも強く揺れた感じですね。



松本 熱帯魚のいる水槽は大丈夫でしたか？



石川 あんまり大丈夫でもなかったんですけど、崩壊したりはしませんでした。まあ、人も魚も無事でしたから、大したことではありませんよ。今も余震が続いてますから、水槽の復興は後回しですけどね。
今回はささやかな復興支援として「Google Crisis Response」を取り上げてみたいと思います。



松本 いいですね～。実は震災以降、テレビの画面を通じて、例えば瓦礫の山とか、発電所の危機とか、被災者が泣いている映像などを繰り返し見すぎてしまっていて、必要な情報はインターネットで知ればいいのかも、なんて思っていたところなんです。



石川 そうですね。必要な情報だけを自分で選んでアクセスするというような、能動的な情報収集のきっかけにもなればいいですね。「Google Crisis Response」は災害関連情報を集めた特設サイトで、グーグルの強力な検索技術を活かして安否情報の検索・確認ができる「パーソンファインダー」、生活情報や交通情報、さらには義援金受付などの震災関連の情報が分かりやすく掲載されています。震災の混乱に乗じた詐欺的なサイトの存在も指摘されていますので、このような信用できるサービスを利用する心構えも大事だと思いますね。



Google Crisis Responseにアクセスしよう！

グーグルは、東北地方太平洋沖地震で発生した被害や復興に関する情報をリアルタイムに更新する特設サイト「Google Crisis Response」を設置しています。アドレスの「<http://goo.gl/saigai>」を打ってもいいですし、「Google災害情報」と検索すれば出てきます。



Google Crisis Responseで出来ることは？

消息情報の「パーソンファインダー」、実際に避難所に貼られている名簿の写真を見られる「避難所名簿共有サービス」、被災された方々からのメッセージをYouTubeの動画で紹介する「消息情報チャンネル」、放射線医学総合研究所など信頼できる情報源へのリンクを紹介する「放射能に関する医学情報」、スケジュールや時間をリアルタイムで更新する「計画停電情報」、医療関係者向けの「受入可能施設情報」、鉄道遅延情報を含む電車・バス・飛行機・道路の「交通運行状況」などのサービスが利用できます。



Google Crisis Responseのここがスゴイ！

●思いつく限りのサービスがどんどん追加されています

例えば、被災者や関係者は日本語が話せる人だけとは限りませんので、「日本語と他言語の間で音声翻訳ができるAndroid向けGoogle Translateアプリ」を試験的に提供し始めました。

●Google MAPやYouTubeと連携したリアルタイムな更新

以前から、都心部などではプライバシーが心配されるほどの情報量を提供していたGoogle MAPのサービスを被災地に適用しているの、「此処が見たい！」という要望にピンポイントで応えることができます。

●携帯電話でも外国語でも利用できます

Google Crisis Responseは、パソコンからだけでなく、携帯端末からもアクセスできるようになっています。また、日本語だけでなく、英語、中国語、ハンガルのページも用意されています。携帯からは「<http://goo.gl/keitai>」から、またはQRコードからもアクセスできます。



地域リハビリテーション部

地域リハ推進班

当事者団体の活動を知る

地域リハビリテーション部では「関係職種・機関・組織との連携や神奈川県民との連携により地域リハビリテーションの普及・推進を図る」目的として、障がい者（当事者）団体の活動の広報をおこなってきました。

昨年度お伝えすることができなかった内容を掲載させていただきます。

かわさき七和会 「麻生ピオニー」

【取材の概要】

取材日：平成22年10月7日(木)10時～15時30分

場所：百合丘老人いこいの家
(麻生区 百合丘2-8-2)

〈この日の活動〉

カラオケ・会食・手芸（ビーズや編み物）など
一日見学と会長・澤淑子さんと参加されている皆さんにお話を伺ってきました。

【かわさき七和会について】

各々活動していた自主グループ（主に脳血管障害後遺症の方、機能訓練B型のリハビリ教室を卒業された方など）があり、その中から組織化したものが『かわさき七和会』です（平成9年8月に設立）。川崎市各区に支部があり、麻生区は『麻生ピオニー』が活動しています。会全体では、七和だよりの発行、バス旅行（年1回）・新年会やスポーツ交流会を開催しています。また、会の中での活動に留まらず、同じ境遇の方々の心理的サポートとして、麻生リハビリ総合病院で2カ月に1回ピアカウンセリングも行っています。

【麻生ピオニーの活動】

脳血管障害がいの方や虚弱高齢者の地域リハビリとして、主に月4回（カラオケ・会食・手芸の日、書道の日、ハンドベル・手話の日、絵手紙の日）老人いこいの家や保健福祉センターで活動しています。それ以外に区や社会福祉協議会などのイベントにも積極的に参加し、各活動で製作した作品の展示やハンドベルや手話を披露しています。

また、さわやか会（*）との共催で『ふれあいコンサート』を開催しており、自ら社会に呼びかける活動を展開しています。当会は生き甲斐づくりとして自分たちで目標をもち、計画立案し活動すること、その意義を大事にしてボランティアや家族も支援をしています。

会長の澤さんは、24年前に脳血管障害で片麻痺を呈するが、当時はリハビリテーションを十分に受けられなかったそうです。自分で情報を集めてリハビリ教室などに参加するものの望む活動がなく、それならば「自分たちで！」と奮起して、会の設立に至ったそうです。少人数から始まり、今では当事者・ボランティア・家族合わせて37人が参加しています。活動費用は、会費や参加費の他に市の助成を受けていますが、その予算を削減されるかもしれないという厳しい状況に現在立たされています。

【活動から学ぶこと】

ピアカウンセリングがきっかけで会の活動に参加されているAさんは、当初は突然の病気と麻痺への戸惑いや不安が強く、暗く、硬い表情で日々を過ごしていました。しかし、会のバス旅行に出掛けた帰りには、それまでとは違う明るい笑顔が見られるようになったそうです。当事者同士ゆえに理解し合えること、同じ境遇の人が「できる」姿を見て「自分も！」と希望や自信を持ち奮起されることもあるのです。私たちOTはその方が奮起できるようなサポートができていますでしょうか？

また、Bさんは「デイサービスにも行っているけど、こっちも楽しいから来るの。」と話され、自分で活動に通い、次のスケジュールを確認し、自分で一日の行動を決めて参加されています。私達OTは、病院から介護保険へエスカレーター式に移行するという支援だけに留まっていないでしょうか？各地域にどんな活動があるか知っているでしょうか？その都度振り返り、その方に必要な情報提供をすることも、地域リハビリテーションの一翼を担うOTの役割です。

麻生ピオニーの定期活動は平日のため、活動見学の機会は少ないかもしれませんが、OTの皆さんも、身近な地域の当事者の声を聴くこと、その方々の活動を知ることから始めてみてはいかがでしょうか。

（*）『さわやか会』について

澤さんは、身障者リハビリ『さわやか会』（月1回の

第三日曜日の午前中に手話と体操)も21年前に立ち上げて活動されています。ボランティアでPTが体操を指導しています。こちらも是非見学してみてください。

▶ **かわさき福祉情報サイト『ふくみみ』**

<http://www.k-fukumimi.com/>

ホーム>団体検索>高齢者に関する団体 または
身体障害に関する団体>リハビリ>かわさき七和
会「麻生ピオニー」・身障者リハビリさわやか会
(文責:地域リハビリテーション部 笹森 田中)

必要なときに必要な支援を NPO法人 脳外傷友の会ナナ



【取材の概要】

日 時:平成22年11月25日

場 所:男女共同参画センター

取材対象:理事長 大塚 由美子 氏

TEL 046-249-2020

FAX 046-247-2433

E-mail npo-nana@amber.plala.or.jp

脳外傷(児)者とその家族の悩み、不安に対し、交流と情報交換を通じ、支え合うことで家族や社会の問題解決の糸口をつかむべく立ち上がり結成された脳外傷友の会。

会設立当初より携わっている脳外傷友の会 ナナ理事長である大塚由美子氏にお話を伺いました。

【会の設立】

1988年、大塚氏のご子息が交通事故に遭い、急性期を経て神奈川リハビリテーション病院でリハビリの日々が始まりました。当時、主治医であった医師にTBI患者の家族会の設立を勧められ、同時期に出会った同じ境遇のご家族(4家族)、医師、ワーカー、心理士を交えてサポートナナを立ち上げました。その後、アンケート調査などを通して、参加家族も増え、1996年の準備会が発足しました。2000年、日本脳外傷友の会設立に伴う経緯の中で、神奈川県における脳外傷友の会ナナが発足、2003年には脳外傷友の会として日本で初めてNPO法人設立しています。

【活動目的】

会員相互の交流と情報交換を通じ、ともに支えあうことで家族や社会での問題解決の道を探り、当事者の元気を支え、社会参加への意欲を引き出しています。また、高次脳機能障害に悩む当事者および家族の社会的不利を改善するために、社会に向けた情報発信、啓発を行うよう活動しています。

【様々な取り組み】

神奈川県内では、地域ごとに会員が集まり、相互の親睦・交流・ネットワーク作りを行い、食事会、カラオケなどを行っています。高次脳機能障害支援モデルの一事業として神奈川リハビリテーション病院内に協働事業室を開設し、家族が主体となって当事者、家族の相談に応じています。また、当事者自身が活動する場であり、それを支えるボランティア育成を行い、広報・啓発活動として定期的に会報誌を発行、リーフレットなどを作成し、配布しています。

また、全国的に家族会の必要性を感じて働きかけて約10年目が経過し、青森県を除く各都道府県に家族会が設立しています。同時に厚生労働省にも働きかけ、高次脳機能障害モデル事業を5年展開し、現在、都道府県すべてに拠点を置いて高次脳機能障害支援普及事業として3年目を迎えているなど国に対しての働きかけも継続されています。

【今後について】

障害を抱えても住みなれた場所で生活が継続できるような支援を提供していきたい

現在、障害者の多くは支援のあるところに転居されていることが多く、支援の地域格差がある状態である。横浜市で始まっている障害者自立生活アシスタント派遣事業(障害者が地域生活を継続するために、専門的知識と経験を有する「自立生活アシスタント」を派遣して、具体的な生活の場面での助言やコミュニケーション支援を行う)のような生活版ジョブコーチやヘルパーに対して見守り支援の方法を伝えること、さらにグループホームの運営などにも携わっていきたいと考えているそうです。

【インタビューを通じて】

脳外傷友の会として「ナナの会」を一度は耳にしたことがある方も多いだろう。今回、会の代表である大塚氏にお会いし、活動のほんの一部を紹介させていただいた。全国でも大規模な当事者の会でありながらも、“必要なときに必要な支援を”と地域性や形態、状況別の会を設け、100人いれば100通りのニーズに応えていこうと日々模索し、活動され、実践していることに脱帽であった。作業療法士として当事者やその家族に地域生活に必要で有益な情報を提供できるように様々な資源を周知していく必要性を感じた。

(文責:地域リハビリテーション部 井上・田中)

理事会 報告

平成22年度 第6回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成23年3月17日(木) 19:00～21:10 場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：渡邊、佐藤、錠内、浅井、奥原、木村、作田、鈴木、机、中西、野々垣、原、澤口

委任理事：富山、山路、野本 出席監事：なし 委任監事：清宮、長谷川

その他：名古屋（事務局書記）、松本（広報部）

●渡邊会長

- ・3月11日(金)の東日本大震災の被害者、被災地に対し黙祷を宣言。全員黙祷し、理事会を開始する。

●第13回神奈川県作業療法学会について（浅井理事・第13回学会長）

- 1) 震災の影響を垣間見、北里大学での4月17日(日)開催予定の県学会開催に対する検討を行った。
- ①北里大学の受け入れ問題：三陸キャンパスの学部が相模原キャンパスへ移ってくる為、会場確保が困難
- ②交通機関の問題：最寄りの公共交通機関の輪番停電の影響
- ③安全性の確保
- ④参加者数の予測人数を下方修正による収入減
以上より、開催が困難な状況→やむなく中止→承認
- 2) 中止に対しての対応
- ①ニュースの巻頭言の差し替え→渡邊会長から中止のお知らせをする
- ②HPで中止のお知らせを出す
- ③発表予定者、講師予定者、共催団体などへの対応→渡邊会長および浅井大会長連名で公文書を発行
- ④協賛金、機器展示料、広告費は半額返金する

●第3回定期総会について（澤口事務局長）

- 1) 県学会は開催中止。しかし、総会は開催する必要がある→事務局で対応する。
- ①日時：5月中旬に予定変更する
- ②会場：60人程度を確保でき、安全性のある場所を確保してから詳細化する

●選挙管理委員会（澤口事務局長代読）

- ・理事および幹事の立候補者は3月4日に〆切。
- ・幹事に清宮良昭氏が立候補→承認
- ・その他定数に不足する理事および幹事は理事会推薦→承認
即日選挙公報を発行する。

●次年度予算案について（野々垣理事）

- ・各部修正予算案によって予算案収支バランスのつり合いがとれたものを総会へ提出⇒理事メールにて承認をとる。以下決定。
- ①講師謝金規定は現行額を規定し、総会へ提出する
- ②予備費が無い為、WFOT積立金（現在190万円積立済み）より50万円を切り崩し、予備費に充てる
- ③賛助会員収入で3万円を予算収入としてあげる

●ウェブサイト管理委員会（作田理事）

- ・レンタルサーバー移行作業について⇒承認
- ①レンタルサーバーはさくらインターネットビジネスプラン 80GB
- ②ドメイン名の変更 kana-ot.jp
- ③契約作業は作田理事が行う

●事務局（澤口事務局長）

- 1) 平成23年度第54回全国肢体不自由養護学校PTA連合会総会およびPTA・校長会合同研究大会への広告掲載について
・今年度座間養護学校校長に支払う講師謝金の受け入れ辞退に対して、先方より広告費として要望あり⇒5000円を承認
- 2) 県社協福祉人材課よりリンク依頼⇒昨年度も同様の内容で承認している⇒次年度も継続して承認
- 3) 原稿料等謝金規定（案）⇒廃案 →現行を追認
- 4) 東日本大震災に伴う当面の事務局体制について
・東日本大震災に伴う交通機関の乱れにより、事務局員は時差出勤⇒理事MLで体制を報告する
・当士会として団体災害保険が未加入⇒情報収集する

●その他：各部からの報告事項（理事MLにて持ち回り審議とする）

- 1) 事務局
- ①渉外活動

- ・群馬県作業療法士会創立25周年記念式典（2/26）→祝電
- ・神奈川県医療専門職連合会総会（3/23）→震災のため中止

②諸団体より周知依頼→即日HP等にて掲載

- ・NPO法人POTA（精神科作業療法協会）第30回作業療法研修会（2/28）：文学院大学 本郷キャンパス
- ・第5回ブラザフェスタ（3/5）：県立労働プラザ
- ・NHKハートフォーラム「リハビリ最新脳損傷からの回復を目指す」（3/20）
- ・第28回日本医学会総会（4/8～4/10）

③委員派遣依頼

- ・県社協より自助具制作ボランティア交流会（3/12）：コーディネーターや自助具の役割や選択・制作の注意点について説明→福祉用具委員会部員（木下）を派遣
- ・小田原市障害程度区分認定審査会委員（H23/4～H25/3）→鈴木孝治（国際医療福祉大学小田原保健医療学部）
- ・相模原市障害程度区分認定審査会委員（H23/4～H25/3）→坂本豊、渡邊誠、湯浅まり（北里大学）、斎藤和夫（淵野辺総合病院）
- ・小田原市介護認定審査会委員（H23/4～H25/3）→浅野恵、菅井京子（国府津病院）、佐藤良枝（曾我病院）
- ・障害者等IT利活用推進ネットワーク会議職員派遣（事務局：県社協）（H23/3～H25/2）→木村理事

2) 教育部

- ①現職者選択研修（身障領域：2/26）並びに共通研修（3/6）報告
- ②認定SIG団体管理：年度末に活動報告提出の依頼を認定時しているが、提出のない団体があるため、管理方法を検討し、年度末あるいは年度初めに「活動報告と活動予定」の提出を求める。

3) 学術部

- ①講習会報告（精神障害領域：2/22）
- ②学術誌刊行報告：初刊号1750部発行。次回は来年1月予定。

4) 広報部

- ①ラジオ日本より「番組名：よこはま口ハス」の「すこやか介護」のコーナーにて出演依頼（3/24）→部員（酒井）にて対応
- ②新宿セミナー横浜校（予備校）での作業療法啓発活動準備→現役作業療法士による職業紹介依頼（6/18）→部員（酒井）で対応

5) 地域リハビリテーション部（木村理事）

- ①第7回地域リハ勉強会→神奈川IPSW協会との合同開催を検討
テーマ：精神障害者の地域移行支援について（案）
日時：平成23年9月18日(日)
- ②「特別支援学校を中心としたタウンミーティングの有効性を調査」
モデル地域として県央（相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村）を予定。

6) 学会評議委員会

- ①新しい学会「（仮称）神奈川県臨床作業療法大会」
・第1回大会長は未定。継続審議。
・開催時期：平成24年4月15日(日)もしくは22日(日)
・会場：大ホール（収容500名以上）1会場
（内容：症例報告（県士会認定SIG及び個人）、県士会研究助成事業発表など）

* 次回の理事会日時 未定

（震災の影響や次年度事業を行う上で支障のない開催時期を検討し、必要に応じ招集する）

※紙面の都合で以下、並びに一部割愛しています…詳細は県士会Webをご覧ください（文責：澤口）

各部からの報告

教育部

○連載！

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

県士会ウェブサイトから質問ができます！

今年度最初の「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」です。

今春作業療法士国家試験に合格、就職された方、おめでとうございます。迎えた側の方も業務拡大や充実に向けて新たに動き始めたところではないかと思えます。

さて、このコーナーは、県士会教育部関連の情報をご案内していきます。教育部はOT協会の生涯教育制度に関する事業を主に展開しています。その情報はこの県士会ニュースと県士会ウェブサイトを通じて発信されますので、しっかりアンテナを張っておいてください。

今号では、今年度の生涯教育制度関連の研修会をご案内いたします。

1. **現職者共通研修**：全10テーマ、生涯教育制度の必須基礎研修

2. **現職者選択研修**：領域別（身体・老年期・精神・発達の各障害領域）の生涯教育制度必須基礎研修で、毎年2領域開催

* 神奈川県士会では、一年間で2つの必須基礎研修が修了できるよう企画、開催しています。

* 7月号以降の県士会ニュースにて開催情報を順次ご案内します。

3. **事例報告登録制度研修会**：事例報告登録は認定作業療法士申請に必須です。OT協会学術部のご協力により開催（予定）

その他、研修会等参加証明書、県士会の役員や部員、委員などの県士会裁量ポイント等のポイント手続きは随時受付中です。また基礎研修修了、認定作業療法士、専門作業療法士にもぜひご挑戦してください。ご不明の点をご連絡ください。県士会ウェブサイトからもご質問ができます。

教育部 奥原孝幸（昭和大学作業療法学科）
045-985-6500代、koyoiku@kana-ot.com

地域リハビリテーション部

今年度の地域リハビリテーション部が開催する研修会は以下のとおりです。

- ・第7回 地域リハ勉強会
- ・第2回 訪問リハビリテーション実務者研修会
- ・第3回 訪問リハビリテーション実務者研修会

今年度の地域リハ勉強会は神奈川県精神保健福祉士協会（以下「神奈川県PSW協会」）との合同開催となります。3連休の中日ですが、神奈川県PSW協会との合同開催は初の試みですので、是非多くの方々にご参加いただき盛り上げていただければと思います。

詳細は県士会ニュース第150号（7月末発行）に

同封するチラシとウェブサイトでご確認ください。

日時：2011年9月18日(日)

10:00～16:00（予定）

場所：ウィリング横浜

テーマ：精神障害者を地域で支える（仮）

定員：70名（うちOTは約半数）

ウェブサイト管理委員会

○県士会サイトのURL（アドレス）が変わる!?

よこ太：ウェブ管の人から秘密の情報聞いちゃった！

ハマ子：あのさあ、セラバンドどこにおいた？

よこ太：あれ!? 秘密の情報興味ないの？

ハマ子：言いたいんでしょ。だったら早く言いなさいよ。

よこ太：へへへーなんと、アドレスが変わるらしいよ！

ハマ子：で、黄色いセラバンド使うんだけど。

よこ太：あっあれ!? 興味ないの？

ハマ子：だって、いつも検索して入ってるから、関係ない。

よこ太：ううっでも、ブックマーク使ってる人や、リンク貼っている人や、名刺に書いている人とか大変だよ。あぁあと、県士会関係のメールアドレスも変わるって！

ハマ子：ふーん、それで、いつから変わるの？

よこ太：5月から6月か…正式には決まっていないうちだって。

ハマ子：この記事が出たときには変わってるかも？

よこ太：あり得る。詳細は県士会サイト上で通知しますので、皆さんも気にかけていて下さい。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。

ハマ子：なんで、あんたが言ってんの？

（文責：ウェブサイト管理委員会 作田・大澤）

現：<http://kana-ot.com/>

⇒ 新：<http://kana-ot.jp/>

平成23年3月アクセスランキング

- 1位 再学習・筋触診 5125件
- 2位 講習会・研修会 3648件
- 3位 求人情報掲載板 3473件
- 4位 作業療法からのメッセージ 1875件
- 5位 作業療法Tips 1436件

平成23年3月県士会ブログランキング

- 1位 第13回神奈川県OT学会 386件
- 2位 ウェブ管的知恵袋 192件
- 3位 大学院生兼主婦兼OTRの日記 94件

更新件数：34件 訪問者延べ数：9532人

Kanaからの手紙発行回数：8回

1月末のトップページカウンタ数：588302



募集

「神奈川作業療法研究」 投稿論文募集のお知らせ

発刊頻度	年1回（毎年1月発刊）
募集の内容	研究論文、実践報告、総説、短報
投稿資格	神奈川県作業療法士正会員（投稿年度までの会費納入済みの方）
査読	1 投稿論文に対し、2名の査読者によって行う。
論文執筆支援制度	研究・論文執筆経験の少ない会員の希望により、テーマの決定から投稿に至るまでの一部または一連の過程に対して、助言・指導を行う。（制度利用年度までの会費納入済みの方）
その他	ウェブサイトを参照のこと



募集

神奈川県作業療法士会 平成23年度 研究助成事業 研究課題募集のお知らせ

応募資格者	神奈川県作業療法士正会員（応募年度までの会費納入済みの方）
研究組織	3 法人以上の神奈川県作業療法士正会員を含む研究者で構成
研究期間	交付決定（平成23年10月中）～平成25年3月31日（約18カ月間）
公募期間	平成23年5月1日～平成23年7月31日
課題採択の可否	平成23年8月末日までに事前評価委員会にて決定
応募・投稿義務	①神奈川県作業療法学会または日本作業療法学会への応募 ②「神奈川作業療法研究」または「作業療法」への投稿
研究計画書書式	ウェブサイトよりダウンロードして使用すること
その他	ウェブサイトを参照のこと

「神奈川作業療法研究」、研究助成事業に関する詳細及び関連書類は、ウェブサイトにてご確認、必要に応じてダウンロードしてください。

神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.com/>



求人

作業療法士 募集

募集人員：常勤職員 若干名
業務内容：回復期リハビリテーション病棟における作業療法訓練
給 与：当法人規定による（業務経験加算あり）
勤務時間：8：30～17：00
休 日：年間休日124日（夏季3日、年末年始5日含む）
施設概要：回復期リハビリテーション病棟2病棟95床
療養病棟1病棟48床（平成23年10月より回復期リハ病棟へ変更予定）
スタッフ：常勤リハ専門医1名、常勤神経内科専門医3名、常勤整形外科専門医1名、PT43名、OT28名、ST8名
応募方法：電話連絡の上、まずは施設見学にお越しください

社会福祉法人 聖テレジア会
聖テレジア病院

〒248-0033 神奈川県鎌倉市腰越1-2-1
TEL0467-32-4125/FAX0467-31-4101
E-Mailoubo@st-therese.jp
担当 事務部長 野沢



求人

作業療法士 募集

募集人員：若干名
就労期間：即日～平成24年3月31日
応募資格：作業療法士免許を有する方
※有経験者を希望※
待 遇：非常勤職員としての雇用です
給与：本市規定による 1864円/時給
手当：交通費相当分支給
勤務時間：8時30分～17時15分
※頻度・時間等は相談に応じます
休 日：4週8休制（土曜・日曜勤務有り）
応募方法：電話連絡の上、面接をいたします。
履歴書・免許証の写しをご持参ください。

※まずはお気軽にお問い合わせ下さい

問い合わせ先

横浜市立脳血管医療センター

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-1

TEL 045-753-2768（直通） FAX 045-753-2905

リハビリテーション部 遠藤まで

Eメール：by-ysbckanrika@city.yokohama.jp

<http://www.city.yokohama.jp/me/byouin/nou/>



講演会

アクティビティ研究会講演会 「対象者に寄り添う音楽？ 療法的音楽活動の紹介とその後の 生活場面への反映」

日時 平成23年5月22日(日曜日) 13:00～15:00
場所 東京大学医学部附属病院リハビリテーション部
東京都文京区本郷7-3-1

アクセス

- ・東京メトロ丸の内線 本郷三丁目駅 徒歩約10分
- ・都営地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩約10分
- ・東京メトロ千代田線 湯島駅あるいは根津駅 徒歩約15分
- ・JR御茶ノ水駅あるいはJR上野駅から都バスで東大病院前
<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/access/train/index.html>

ワークショップ: 楽器を使用した療法的活動の紹介と体験
講演内容: 講師に音楽療法士である 伊藤啓子 先生をお迎えし、音楽療法とその後の生活場面の变化についてお話しいただきます。またワークショップとして、実際に楽器を用いて療法の体験を行っていただく予定です。

なお、作業療法士協会の基礎研修ポイント (1ポイント) の予定です。

講師 伊藤啓子/昭和音楽大学 准教授 音楽療法士

対象 作業療法士

定員 30名程度

参加費 1000円

申し込み・連絡先

ACT研事務局 奈良 まで下記メールをお願いします。

メール act-ken@mail.goo.ne.jp

主催 アクティビティ研究会

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/act-ken/>



講習会

講習会のお知らせ 『後天性脳損傷の子どもたちの 高次脳機能障害』

講師: 栗原まな先生

(神奈川県リハビリテーション病院 小児科部長)

小児の高次脳機能障害は成人の場合と異なる特徴を有する場合がある。学校への復学のために留意すべき点も多い。講師の栗原医師は、後天性脳損傷の子どもたちのリハビリテーションの豊富な経験を持ち、子どもの高次脳機能障害に関する著書も多い。神奈川県リハビリテーションの病院の高次脳機能障害児への対応を紹介していただきながら、その実践について講演していただく。

日程: 2011年9月3日(土)

13:30～17:00 (受付13:00～)

定員: 40名 (定員になり次第締め切り)

会場: 横浜市総合リハビリテーションセンター

対象: 職種を問わず参加可能

参加費: 2,000円

申し込み方法: 件名に「高次脳機能障害講習会参加希望」と明記し、①～③の内容を記載したメールを以下のアドレスへ送付して申し込み下さい。

① 氏名・② 所属名・③ 職種

申し込み・お問い合わせ先:

メールアドレス matsumoto.m@yokohama-rf.jp

横浜市総合リハビリテーションセンター 松本政悦



講習会

講習会のお知らせ 発達OT講習会 『セラピスト養成講座×2』 ～横浜バージョン～

講師: 小松則登 (愛知県心身障害者コロニ中央病院: 発達OTネットワーク@ASI代表) はかASIメンバー8名

内容: 「セラピストとしての基本姿勢」を確認し、子どもさんが訓練室に来られて、セラピーを受けて帰られるまでの一連の流れをじっくりと学びなおす事を目標にしています。行動・学習・コミュニケーション障害が核となるお子さんに対しての作業療法について実際の臨床で役に立つような形式で座学と演習を加えていきます。日々の臨床で必要な基本的なスキルを習得し、臨床応用していくための研修会であることも兼ねています。そして、それを文章化する際の「お手紙の書き方」、地域で勉強会を運営するためのコツ、なども合わせて講義の中に含んでいく予定です。

日程: 第1回2011年8月20日(土)・21日(日)

第2回2011年11月5日(土)・6日(日)

定員: 50名 (申し込み多数の場合は選考)

会場: 横浜市総合リハビリテーションセンター

対象: 作業療法士他、日々、子どもと向き合っている方・養成講座に出てみたい方・企画してみたい方

参加費: 1日4,000円 (1日単位で参加可能 全日参加の場合は15,000円)

テキスト代1,000円

8月20日と11月5日の終了後に懇親会を開催予定。1回4,000円

申し込み方法: 件名を「講座講座参加希望」として下記のアドレスへ、①～⑤を記載してお申し込み下さい。

① 氏名・② 所属名・③ 参加日・④ テキスト希望の有無・⑤ 懇親会参加の有無と参加日
申し込み締め切り: 6月末日 参加の可否は7月上旬にお知らせします。

メールアドレス matsumoto.m@yokohama-rf.jp

横浜市総合リハビリテーションセンター 松本政悦

* お申込みいただいた確認の連絡を1週間以内に返信いたします。

ご連絡がない場合、再度お問い合わせください。

プログラム等の詳細は次のHPでご確認できます。

<http://www.mc.ccnw.ne.jp/aunskoi/>



研究会

「若手療法士“この能力”だけは 身につけていたい！」 ～動作分析能力・コミュニケーション能力・ 療法士業界の今後を考える能力～

●日時

2011年7月3日(日) 10時30分?17時

●内容

経験年数5年目までの療法士を対象として、療法士の“技”として必要不可欠な、【動作分析・コミュニケーション能力】に関して、その分野の第一線で既に多くのセミナーを開催している講師を迎えます。その延長として、今後の療法士業界でどのように生き残っていくかを考える機会を提唱します。

●講師

園部 俊晴 先生 (関東労災病院)

鯨岡 栄一郎 先生 (介護老人保健施設 小名浜とさわ苑)

石井 和彦 (有限会社ばかばかライフケア)

●会場

横浜リハビリテーション専門学校 8F 講堂

●受講費

10,000円 (学生は3,000円)

●定員

100名 (先着順)

申し込み先

有限会社ばかばかライフケア 療法士.comにて受付中

http://ryouhouji.com/modules/seminar/detail.php?sm_id=587

連載

青年海外協力隊体験記

～大草原の小さな私～

第2回 渡航延期

青年海外協力隊 平成23年度1次隊 堤由貴子



●執筆者プロフィール

大学卒業後一旦就職するも、退職。その後、作業療法士資格を取得、都内の病院へ3年間勤務。昨年、長年の夢であった青年海外協力隊の試験を受験し、合格。平成23年3月、退職し、4月から約2カ月の訓練所での訓練を経て、協力隊員として赴任予定であったが、現在、訓練所への入所を3カ月延期中。

本来ならば、この回で青年海外協力隊の訓練所の事を書く予定でしたが、4月に予定されていた訓練を7月からに変更することになりました。(この記事は4月初旬に書いています)。そのため、今回は、協力隊の事とは少し離れたものになってしまいますが、なぜ変更したかを含めて、現在の状況をお知らせしたいと思います。

3月、私は4月に予定されていた訓練所入所のため、着々と準備を進めていた。様々な事務手続きを行い、訓練所や渡航先で必要と思われる物品をかき集め、有給をもらって実家に帰り、家族・友人に別れを告げ、仕事の引き継ぎをし…。

しかし、3月11日の大地震、職場にいた私は大きく揺れた。自分が今まで経験した中で、一番揺れた。そして、自分が経験してきた災難の中でも、一番危険だったように思えた。それから、自分や親しい人たちの無事にほっとしたもの、その被害状況が徐々に明らかにされるにつれ、じっとしてられない気持ちになった。今、自分に何ができるだろうか。仕事もある中で、冷静に生活し混乱を招かないようにする、募金をする、というその時に自分にやれることをなるべく実行した。それと同時に、協力隊への参加について非常に悩んだ。

被害状況を見ていると、現地で自分がすることはたくさんあるように感じた。また、非常に長い期間の支援を要するだろうということが想像された。世間では未曾有の事態とも騒がれている。こんな時に他の国に行っていていいのか。3月いっぱいでは退職することも決まっていたため、4月になれば、協力隊にさえ行かなければ、長期間被災地へ行く時間は十分ある。協力隊は長年の夢であったけれども、時にはそれを捨てなければならない時もある、とも思った。

私が、「そんなこと言ってらんないよね。」と、協力隊参加を迷っているという話をした時、周囲の反応は様々だった。自分の考えもなかなかまとまらなかった。結論から言うと、私はその後、JICAに連絡し、被災地へのボランティアを理由とし、渡航延期を申し出た。基本的には、やむをえない場合以外の渡航延期は認められず、また、渡航先が変更をよしとしなければ取り消しになる可能性もある。結局、私は、

自分にとって非常に重要なことだったにも関わらず、自分では決めきれず、JICAに自分の身の振り方を委ねる形にしたことになる。そして、結果としては、渡航は延期となった。

一人一人が自分の目の前にあることを着実にやって、何かしらの支援に結びつけることは大切だと思う。皆が被災地に行けるわけではなく、無理をすることよりも、一人一人が身近なことを続けることが大事なのではないかと思う。私にとって目の前のことをやることは、JICAボランティアに参加することだろう。国際協力は大事だし、今回の震災でも多くの国々が支援をしてくれた。私の派遣予定のモンゴルでも、国としての支援だけでなく、協力隊が派遣されている病院では、全職員の日分の給料を送ってくれたと聞く。今まで、日本が支援をしてきたからそれがあったと思うし、私が協力隊へ参加することも非常に重要な事。今まで渡航準備を進めてきた両国のスタッフがいる事もわかっている。関東にいてもやれることはある。帰ってきてからだってやれることはある。頭の中ではわかっているのだ。しかし、割り切れない。もちろん、今、直接、被災地で関わって自分の胸に焼きつけることが、自分が今後、復興支援をする時にエネルギーになるのではないかという思いもある。それに、現地に実際に行く人もやっぱり必要だとも思う。しかし、やっぱり、自分のエゴのようにも思える。目の前のやるべきことを置き去りにして、直接現地で判りやすい活動をしたいただけなのではないか。決まっていたことを踏み倒して強硬突破しようとしているエゴイスト。どう考えても、混沌としている自分がいた。

結局、どうしたらよかったのかは判らない。近くに困っている人がいる。遠くにも困っている人がいる。

今はまだ、混乱して、考えも文章もまとまっていないところがあると思う。答えは見つからない。たくさん疑問がある。今回、自分が招いた結果。迷惑を被っている人もいるかもしれない。ただ、今はこの結果に添ってやっていこう、と思っています。自分はこんなでいいのかと思いつつ、こうやって迷いながらも、進んでいくしかない。精一杯、今決まったこと、被災地での活動をやってこようと思います。

(文責：堤)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース <149号> 2011年5月発行(年6回発行)

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 野本義則

編集担当 松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・馬場順子・杉本美穂・矢野竜也・堤由貴子

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号 TEL/FAX: 045-663-5997
月火水木金 10:00～16:00 メールアドレス: jimukana-ot.com一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.com/>

作業療法 神奈川

検索